

アクションプラン（AP）を一歩先へ進めるツールとして。

第1回学校訪問の代替面談終わる！

代替面談では、市町村教育委員会の皆様、そして校長先生方にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。また、報告書やAPの再提出につきましても、大変お世話になりました。今後、校長先生方にAPをさらに学校経営に生かしていただくために、代替面談の振り返りをお伝えします。

学校改革のツールと
するため、あえてAP
にこだわりました。

【代替面談の目的】

- 45分間という限られた時間の中で、APに示されている内容の確認をする。
- チェックシートの項目にあるようなAPに近づけていただくための助言を行う。

面談報告書より

【APに関わる校長先生方の主な感想】①

- 校長の方針をどのように検証していくのか、そして検証の指標としてどのように数値を見ていけばよいのか再考が必要であると感じた。
- 取組指標は、その取組の成果を検証するだけでなく、取組自体がどれだけできたか確認できる方法を記すものであることが分かった。
- 8月末の状況や2月末の達成状況にどんなことを書きたいか（明確なゴールデザイン）をイメージすることにより、それに向けて取り組まなければならないこと、検証しておかないといけないことがはっきりしてくることが分かった。
- だれが、いつ、何を、どのくらい、どのように取り組むかを明確にすることで定量化が進み、取組指標や検証方法も明らかになってくることが分かった。（次Pに続く）

【APに関わる校長先生方の主な感想】②

第12号②

- 学校評価アンケートが主観だけにならないように、少しでも客観的に評価できる取組基準が示されるように考えてみたい。
- 取組や成果の見える化は改めて必要であると感じた。取組の達成感や成果による成成感は子どもたちや先生方の励みになると思う。また、見える化により改善の視点がより明確にもなる。
- 1年間というマネジメントサイクルをさらに短いスパンでも回せるようにAPを考えていく必要があると感じた。
- 改善したAPを改めて教職員に説明し、全員でしっかりと共有した上で改めて組織的に取り組んでいきたい。

面談報告書より

【代替面談やAPに関わる主な意見】

- APの補足資料を準備して面談に臨んだが、ほとんど活用できず残念であった。
- 校長の自己目標シートへのAPの代替は適切なことか。校長の自己目標や取組はどう示せばよいか。
- 校長を支援する学校訪問のはずが、APの数値にこだわる面談であった。APの趣旨とは違うのでは。
- すべての取組を定量化しないといけないのか。教育活動、教育評価の中には数値化できない、主観で評価せざるを得ないこともある。数値化できるものだけを追いかければ、教育の本質を見誤る危険性がある。APが数字遊びにならないことを期待する。

ありがとうございました。

- ◇学校経営を一步先へ進めるツールとしてAPを前向きに捉えて、さっそく組織的な取組を進めていただいている学校も多く、校長先生方の改善・改革への強い意欲を感じています。
- ◇面談時間が限られていたため、校長先生方のご期待に十分お応えできなかった面もありましたが、第2回の学校訪問では目標に向けての取組の進捗状況等を具体的にお聞きできればと思っています。よろしく申し上げます。